

#### 第4回42会報告 (09年4月4日)・・・同5日WHCML掲載文

4月4日(土)、文京区の「小石川後樂園」でWHC42年卒業生による春の園遊会が開催されました。国の特別史跡・特別名勝に指定されている小石川後樂園は水戸徳川家の中屋敷(後に上屋敷)として、ご存知天下の副将軍・黄門様の代に完成した庭園です。

暖冬の影響を受けて、今年の桜前線は平年より1週間以上早く北上し、東京でも3月21日にソメイヨシノの開花宣言が出されました。小石川後樂園のホームページには、10日も前にシダレザクラは満開、ソメイヨシノも3分咲きと書かれ、園遊会の頃にはすっかり散ってしまうのではと案じられました。もっとも、後樂園の名は中国の古書にある「天下の憂いは先だつて憂い 天下の楽しみは後れて楽しむ」から名づけられたことを知れば、「花は盛りにのみ 見るものかは」後れて楽しむのもまた良し、「なほ あはれに情(なさけ) 深し」との趣きを感じ入るのも一興、とも考えていました。

さて、この日、三三五五集まった42会メンバーは、(3+3+5+5=)16人。まずは庭園の散策から開始。入り口近くの庭園のシンボル、シダレザクラはすでに散り初め、水面に花びらを浮かべていましたが、ソメイヨシノは3月下旬から続いた真冬並みの寒さと直近2日間の暖かさが幸いして、まさにどんぴしゃの見頃にぶつかりました。



花の命は短くも毎年変わらぬ表情を見せる桜は、ドコカの国の総理大臣が短命で毎年違う顔になるのとは似て非なり、この時季、決して国民の期待を裏切りません。陽春の暖かさに誘われて桜を求めに来た日本国民および多国籍人で、園内はかなりの賑わいでした。

ヤマザクラも芽を吹き、桜のほかにも ハナモモ、ヤマブキ、ジャクナゲ、ユキヤナギ、シャガ、タンポポ、タチツボスミレ、オオイヌノフグリなど、百花とまではいきませんが、

二十花繚乱くらいの華やかさで、思い切り春を満喫しました。朝方の晴れ間はどこへやら、宵からの雨を運ぶ雲が厚くなったものの、これも花曇りと書けば乙なもの。面積7万㎡といますから、船橋五十嵐家の庭の少なくとも7倍以上はある園内を約1時間かけてのんびり歩きました。



散策を終えて、庭園のお食事処「涵徳亭（かんとくてい）」の別間に再集合。高齢となった42会の生母・縹の開会宣言（ごめん「恒例となった」の変換ミス）、続いて荒木の発声で乾杯をし、いよいよ「花より団子」の大宴会開始。新潟・布施から「雪中梅」、栃木・田上から「四季桜」と、それぞれの地元を代表し、かつ春の雰囲気にふさわしい銘柄名の大吟醸が提供され、散策で乾いた喉には格別心地よく、たちまちのうちに1升8合は飲み干されました。さらに、植村からのチーズと鳥ササミの自家製燻製が、豪華な会席料理に彩りを添えてくれました。

順繰り話す各人各様の近況報告も面白く、和室の気安さから座を移しながらの談笑も大いに盛り上がりました。共通の話題は、メンバーが1万2千円と2万円に二分された「定額給付金」と、今年8月初めに予定している日光湯元の合宿に関連した「雨の光徳牧場合宿（我々が2年生のとき）」の思い出。あとはさまざまな話題に時間を忘れました。



涵徳亭で予定した3時間はすぐ過ぎてしまって、なお名残惜しく別れ難く、さらに東京ドームホテル最上階の「アーティスト カフェ」の一室でひとときを過ごし、散会したのは17時半、花も団子も堪能した6時間を終えました。

なお、前期高齢バイリンガル萩原（柳）女史はロンドン（急遽ハワイに変更？）遠征のため、42会チーフカメラマン西海教授は学科主任として新学期の公用のため、今なお現役バリバリマン皆川元取締役はご家庭と会社の諸事のため、また、多治見市在住の石川ノリノリマンは地元町会長職引継ぎのため、今回は欠席し、それぞれメッセージが寄せられました。



左より<前列>新妻、菅原(猪間)、山口(赤坂)、小関(唐木)、まとう(日向寺)  
<中列>大竹、花田  
<後列>五十嵐、植村、佐々木、布施、荒木、岡林、徳渕、小坂、田上